

A photograph of a DJ performing at a nightclub. The DJ is in the foreground, wearing a dark shirt and glasses, focused on the Traktor DJ software on a laptop. The DJ booth is illuminated with warm, yellow and orange lights. In the background, a crowd of people is visible, some looking towards the DJ. The atmosphere is dimly lit with colorful stage lighting.

# 宇和島の夜と音楽

音を楽しむと書く「音楽」は、演奏したり、鑑賞したり、音に合わせて踊ったり、さまざまな楽しみ方があるエンターテインメントです。そんな音楽を通じて一期一会の特別な時間を提供する場所が、宇和島にもあります。今回は、その中でも夜を中心に音楽好きが集う場所を紹介しながら、宇和島と音楽のすてきな関係をお届けします。



## 宇和島の夜を彩る GOOD MUSIC

宇和島に根付く音楽文化一。バンドを組んでライブハウスで演奏したり、気の合う仲間と音楽イベントを開催したり、はたまた演奏せずともレコードやCDのコレクションを紹介したり。それぞれの楽しみ方で盛り上がりを見せています。そんな音楽好きが集う場所では、初対面でも共通の話題で盛り上がるなど、新たな出会いや発見が生まれています。今夜は気になるあの店で、新しい宇和島を見つけてみませんか。



やりたいことをやれるよう、背中を押せるまちであるために



## 01 BOOBY



「BOOBY」は、市内唯一のクラブ兼ライブハウスです。店主の木原雄一さんは、学生時代にDJを始め、市内外のクラブなどでプレイしながら美容師として働いていましたが、お世話になった人の他界をきっかけに「人生一度、やりたいことをしよう」と考えるようになりました。そして2009年、各地のイベントで関わったアーティストを宇和島に呼びたいと思っていたことや、地元バンドからライブができる場所が欲しいとの声があったことから、この場所をオープンしました。

人に恵まれてきたと話す木原さんは、各地にできたつながりを生かし、さまざまなゲストを迎えてイベントを行ってきました。「来てくれたからには、宇和島を楽しんでほしい」と宇和島のおいしいものなどを紹介していたところ、気に入って何度も来てくれるアーティストもいるそうです。コロナ禍では約5年休業しましたが、宇和島に灯る音楽の火が消えないよう、イベントを続けています。

木原さんは、自分がいいと思ったことは先にやりたいとアパレルショップやバーなどにも挑戦してきました。若い人たちにも期待し、「あったらいいなと思うことがあれば、やればいい。背中を押せるまちでありたい」と話します。店名の由来を尋ねると「下から2番目くらいが気楽だから」と笑う木原さんは、今日もその大きな背中を後輩たちに見せ続けます。

心地いい空間で、宇和島のこれからが生まれる

2022年7月に恵美須町商店街にオープンした、その名も「恵美須町サービスエリア」。昼は米粉を使ったベーグルなどを提供するカフェ、夜は心地いい音楽が流れるサウンドバーとして営業しています。

店主の細川晋介さんは、学生時代にR&BやHIPHOPなどの音楽にはまり、DJにも興味を持つようになったそうです。以前営んでいたバーにもDJセットを置き、知り合いのDJに音楽を流してもらったりしていたと言います。現在の店舗にもDJブースを設け、定期的にDJを呼んでプレイしてもらっています。「しっかりしたイベントは他に任せて、ここではあくまでBGMとして、雰囲気を楽しんでもらえれば」と細川さんは話します。

宇和島で他と同じことはしたくないという細川さんは、市内に個人のお店がなかったことから、以前営んでいたバーでハンバーガーなどを提供していました。そんな中、単体でも販売できるベーグルに魅力を感じ、現在の店舗では、グルテンフリーも意識したカスタムオーダーのベーグルも提供しています。

店名の由来は「固定イメージを持つてほしくないから」だそうで、内外装もできるだけシンプルにし、来た人がそれぞれの感じ方をしてもらえればと考えています。「色々な人に来てもらって、この場所がつながって、何か面白いことが生まれるきっかけになれば」と、これからの宇和島へ期待を込めて、心地いい空間を提供し続けます。

## 02 EBISUMACHI SERVICE AREA



## 老若男女、宇和島を楽しむ人が集う場所

## 03 R69K JACK

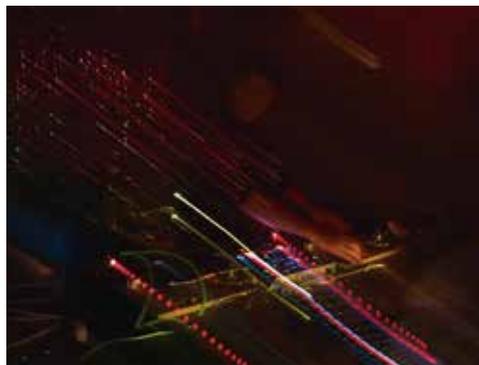
2016年12月にきさいやロードにオープンしたライブハウス&バー「R69K JACK」(ロックジャック)。店主の渡辺 文香さんは、学生時代から音楽が好きで、アルバイト先などで宇和島にも多くのバンドマンがいることを知り、ライブの企画などを行うようになりました。その後、約20年バーなどを営んできた間も、さまざまな音楽イベントなどを企画してきました。そうした中で市内外の知り合いや協力者が増え、自分のライブハウスを作りたいという長年の夢を叶えました。

バーとしての通常営業に加え、当初は市外のバンドを中心にイベントを行っていましたが、市内のバンドの演奏場所としてのニーズや、それを楽しみに来てくれる人が多いことを知り、現在は上手くバランスをとりながら、月に1〜2回イベントを行っています。

コロナ禍では風評による影響も大きく、長期休業を余儀なくされました。コロナ前ほど気にせずイベントを行え始めたのは今年からだと言いますが、客足は以前ほどには戻っていないそうです。

渡辺さんは「若いバンドが少なく感じるけれど、スタッフのつながりなどで来てくれる若い子もいる。こういう店は内輪で盛り上がっていると思われがちだけど、誰でもウエルカム。音楽以外にも宇和島を楽しんでいる人たちとも知り合えるので、とりあえず来てみて、自分なりの楽しみを見つけてくれたらうれしい」と笑顔で話してくれました。





## みんなであ奏でる 宇和島の未来の音

城山からのサイレンの、鉄道唱歌で気分が上がり、宇和島さんに思いをはせる。牛鬼まつりが近づいて、ガイアの音色に胸躍り、宇和島おんどで心浮かれる。汽車に乗り、到着チャイムに懐かしさが込み上げる。

宇和島には、今回紹介した場所も含め、さまざまな場面で流れる「宇和島の音」があります。そしてそこには、聞いた人それぞれの感じ方があり、思いが存在します。そうした思いがまじわう場所としてある宇和島にとって、日常を彩る音たちも、このまちの大きな魅力なのだと思います。

そんな宇和島の音たちと、そこから生まれた思いを受け継いでいくため、未来に向けた「宇和島の音」を、みんなで鳴らしていければと思います。